

美術専攻 工芸研究領域 (陶)

オウ エツ

王悦



地層

手びねり、陶土、釉薬

地層

本研究の制作テーマは「侵食」である。風や雨などの自然現象によって物質の表面や形態が変化していく侵食の過程に加え、時間の経過や環境の影響を受けながら、人の内面や生活のあり方が少しずつ変容していく様子にも関心を持ってきた。侵食そのものは時間とともに不可逆的に進行していくが、それを受け取る側の在り方は、経験や環境によって変化し得るものだと考えている。

陶土は、成形、乾燥、焼成という工程の中で、常に外部からの力を受けながら変化する素材である。私はこれまで、制作過程で生じる歪みやひび割れを、壊れそうでありながらも均衡を保っている状態として捉え、それらを作品の中に取り入れてきた。そこには、不安定さを抱えながらも、かろうじて形を保っている心の状態が重なっていたように思う。

しかし制作を継続する中で、私自身の生活のリズムや思考にも変化が生じた。無秩序に感じられていた日常の中に、次第に自分なりの秩序を見出すようになり、それに伴い、作品の形態もまた変化していった。以前は崩壊や不規則さを強く示していた造形は、徐々に重なりや構造を意識した、より整ったかたちへと移行している。

本作品《地層》は、こうした変化の過程を反映したものである。幾重にも重ねた土のかたちは、自然が長い時間をかけて形成してきた地層のイメージであると同時に、生活の中で積み重ねられてきた経験や感覚の層を示している。表面に現れるひび割れや歪み、釉薬のにじみや色の揺らぎは、外部からの侵食が続く中で生じた痕跡であり、その中に新たな均衡が立ち上がっている状態を表している。

侵食は時間とともに変わることなく進行し続ける。一方で、その中にどのような秩序を見出すのかは、制作する私自身の変化に委ねられている。本研究では、侵食という不可避な現象と向き合いながら、変化の中で形づくられていく秩序と、その静かな持続性を、陶という素材を通して探ることを目的とした。